

島根県立大学短期大学部 総合文化学科  
平成 29 年度 第 2 回 客員教授講演会

講師 広島大学大学院教授 有元伸子先生  
演題 三島由紀夫と映画・演劇

有元伸子先生より

現在、マンガやアニメの実写化や 2.5 次元舞台などの二次創作が量産されて、そのたびに原作ファンの中で賛否の声があがっています。

文学作品の映像化・舞台化などの翻案は以前からありましたが、それらは作品の普及に大きく関わるとともに、それ自体が原作の批評にもなっています。

今回は、三島由紀夫の「金閣寺」や「黒蜥蜴」<sup>くろとかげ</sup>などを題材として、映画や演劇による受容について、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

お会いできることを楽しみにしています。



【有元伸子先生のご紹介】

1988 年、広島大学大学院文学研究科博士課程後期国語学国文学専攻修了。金城学院大学、鈴峯女子短期大学勤務を経て、2004 年より広島大学大学院文学研究科教授として今日に至る。博士(文学)。

専門は日本近現代文学。〈語り〉・〈ジェンダー〉・〈アダプテーション(翻案)〉などを切り口として、三島由紀夫や主として昭和以降の現代作家の小説・戯曲の新しい魅力や読み方について研究されている。

有元先生の編による『21 世紀の三島由紀夫』(2015 年、翰林書房)は、没後 45 年間にわたる三島由紀夫の多面的な解釈を総括し、三島文学の新たな可能性を探った画期的な著作である。

日時：平成 29 年 10 月 25 日(水) 10:40~12:10

場所：島根県立大学松江キャンパス 図書館棟大講義室

問合せ：0852-26-5525 (代表)

※入場無料・事前申し込み不要・駐車場あり